

図書館セミナー開催

医学図書館では平成23年6月2日（木）16：30-18：00 211講義室で中根裕信先生（医学科ゲノム形態学分野）を講師に図書館セミナー「臓器・骨の模型見て触って人体を感じてみよう」を開催しました。今回の図書館セミナーは4回目の開催となり参加者は21名でした。

最初に、講師は受講者に「心臓はどのように動いて、なぜ意識的に止められないのか。」「腎臓が一日にろ過している血液の量は？」などと語りかけながら受講者に人体について丁寧に説明されました。人体模型を使っただけの先生の説明はわかりやすく、参加者からは「言葉だけでは想像がつかないので、模型があると想像しやすいです。」「耳の内部構造を知って中耳炎は外耳からでなく鼻管からの感染であるということを知り大変興味を持ちました。」と好評でした。

次に、今話題の「JIN-仁-」と江戸時代にも多くの人々が苦しんだ脚気についての講演をされました。「仁」とは、人を思いやるという意味で人の守るべき五徳のうちで一番重要なものであり、この物語で主人公が医師として「仁」を実践していることが国籍を超えて多くの支持を得ている理由のひとつではないかと説明されました。

また、江戸時代の脚気は白米を食べることが多い江戸で患者が多く「江戸患い」ともよばれていて、原因は明治時代でも解明されず、日露戦争時の軍隊でも多数の患者がいて脚気菌が原因という説が有力でした。しかし、高木兼寛の疫学研究によりビタミンB1（チアミン）の欠乏が原因であることが解明されました。この歴史的事実からわかるように、病気には生活環境や食生活などが関係している場合などもあり、医師として患者の診察を行う場合には、幅広い知識を習得して広い見識を持つ必要があるということをお話されました。

最後に、中根先生が現在研究中の難病(色素性乾皮症、コケイン症候群)についてお話しされ、「仁」をもって患者さんを思いやる気持ちで臨床に携わっていただくようにとお話をされました。学生さんからは「医療はただ技術を提供するだけではなく、相手の立場になって、相手を理解することが大切だと思います。」と感想をいただきました。

医学図書館ではより多くの学生さんに医学図書館を利用いただくために、今後もこのような企画を計画していきます。



医学図書館では常時人体模型の展示・貸出を行っています。
ご来館いただき実際に見て・触って学習にお役立てください。